

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年10月15日
【四半期会計期間】	第16期 第2四半期（自 平成26年6月1日 至 平成26年8月31日）
【会社名】	株式会社ワイズテーブルコーポレーション
【英訳名】	Y's table corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 金山 精三郎
【本店の所在の場所】	東京都港区六本木四丁目4番8号
【電話番号】	03(5412)0065(代表)
【事務連絡者氏名】	財務経理担当執行役員 武本 尚子
【最寄りの連絡場所】	東京都港区六本木四丁目4番8号
【電話番号】	03(5412)0065(代表)
【事務連絡者氏名】	財務経理担当執行役員 武本 尚子
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第2四半期連結 累計期間	第16期 第2四半期連結 累計期間	第15期
会計期間	自 平成25年 3月1日 至 平成25年 8月31日	自 平成26年 3月1日 至 平成26年 8月31日	自 平成25年 3月1日 至 平成26年 2月28日
売上高 (千円)	6,743,341	7,026,817	13,638,003
経常利益 (千円)	207,295	78,813	427,632
四半期(当期)純利益又は四半期 純損失( ) (千円)	134,716	2,391	245,761
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	96,671	3,773	178,845
純資産額 (千円)	987,932	1,080,855	1,077,081
総資産額 (千円)	5,200,227	5,820,770	5,193,564
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は1株当たり四半期純損失 金額( ) (円)	5,062.83	0.90	92.36
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	18.8	18.4	20.5
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	325,530	500,836	615,370
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	106,524	268,065	305,867
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	242,653	131,625	182,216
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	1,098,674	1,510,846	1,149,448

回次	第15期 第2四半期連結 会計期間	第16期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成25年 6月1日 至 平成25年 8月31日	自 平成26年 6月1日 至 平成26年 8月31日
1株当たり四半期純利益又は1株 当たり四半期純損失( ) (円)	19.96	13.03

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 平成26年3月1日を効力発生日として普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失を算出しております。

4. 第15期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第15期及び第16期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

## 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、新たに締結した重要な契約は次の通りです。

### 業務提携契約

契約会社名	相手方の名称	国名	契約品目	契約締結日	契約内容	契約期間
株式会社ワイズ テーブルコーポ レーション (当社)	株式会社エスクリ	日本	業務提携契約	平成26年 7月17日	当社が運営するレス トランにおけるブラ イダル事業の運営委 託(5店舗)	店舗ごとに契約締結 日より3~5年間

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、金融政策、経済政策等の効果もあり、緩やかな景気回復の動きが見られました。しかしながら、消費税率上げが個人の消費マインドに与える影響が懸念されるなど、景気の先行きは不透明な状況です。

外食産業においては、食材価格の高騰や「食」の安全に対する社会的関心の更なる高まりに加え、人材確保の競争も一層激化するなど、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の下、当社グループは、直営店及びFC店による新規出店を積極的に推進してまいりました。当第2四半期連結累計期間においては、カジュアルレストラングループは引き続き業績に貢献しましたが、店舗の開業及び改装にかかるコストを計上したこと、XEXグループの不振等により、売上高は7,026百万円（前年同期比4.2%増加）、営業利益は62百万円（同62.1%減少）、経常利益は78百万円（同62.0%減少）、四半期純損失は2百万円（前年同期は四半期純利益134百万円）となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメントの状況は次の通りです。

##### XEXグループ

「XEX」をはじめとする高級レストラン事業であるXEXグループについては、既存店舗の強化として、平成26年7月に「毛利 Salvatore Cuomo」の全面改装を行い、改装コストを計上いたしました。また、一部既存店舗が低調に推移したほか、平成25年4月に直営店「The Kitchen Salvatore Cuomo ROPPOINGI」、同年6月に直営店「LE CHOCOLAT DE H」を閉店したことにより両店舗の売上が剥落しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の同グループの売上高は2,413百万円（前年同期比6.1%減少）、営業利益は33百万円（同69.9%減少）となりました。また、店舗数は直営店11店舗、FC店2店舗となりました。

なお、平成26年8月より「XEX」5店舗のプライダル事業について株式会社エスクリと提携し、運営を委託しております。

##### カジュアルレストラングループ

カジュアルレストラングループについては、直営店及びFC店の新規出店を進めてまいりました。直営店では、平成26年3月に「SALVATORE CUOMO & BAR 日本橋」及び「Crystal Jade Shanghai BAR 日本橋」、同年4月に「SALVATORE CUOMO & BAR 新潟」、同年7月に「鉄板焼きとワイン AG 北新地」、「PIZZA SALVATORE CUOMO 三井アウトレットパーク木更津」及び「SALVATORE CUOMO & BAR 町田」を、FC店では、平成26年3月に「SALVATORE CUOMO & BAR 万座ビーチ」、同年4月に「SALVATORE CUOMO & BAR 柏の葉」を出店いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の同グループの売上高は4,610百万円（前年同期比10.5%増加）、営業利益は554百万円（同3.4%増加）となりました。また、店舗数は直営店41店舗、FC店34店舗となりました。

##### その他

その他は、不動産賃貸事業等により構成されております。当第2四半期連結累計期間の同グループの売上高は3百万円（前年同期比4.7%増加）、営業損失は2百万円（前年同期は営業損失3百万円）となりました。

#### (2) 財政状態

##### 資産の状態

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は2,744百万円となり、前連結会計年度末に比べ418百万円増加いたしました。これは主として、現金及び預金の増加361百万円等によるものです。固定資産は3,076百万円となり、前連結会計年度末に比べ208百万円増加いたしました。これは主として、建物の増加195百万円、敷金及び保証金の増加19百万円、のれんの減少21百万円、繰延税金資産の減少16百万円等によるものです。

この結果、総資産は5,820百万円となり、前連結会計年度末に比べ627百万円増加いたしました。

##### 負債の状態

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は3,277百万円となり、前連結会計年度末に比べ672百万円増加いたしました。これは主として、買掛金の増加196百万円、短期借入金の増加260百万円、未払金の増加193百万円等によるものです。固定負債は1,462百万円となり、前連結会計年度末に比べ49百万円減少いたしました。これは主として、長期借入金の減少114百万円、繰延税金負債の増加24百万円、資産除去債務の増加17百万円等によるものです。

この結果、負債合計は4,739百万円となり、前連結会計年度末に比べ623百万円増加いたしました。

##### 純資産の状態

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は1,080百万円となり、前連結会計年度末に比べ3百万円増加いたしました。これは主として、為替換算調整勘定の増加5百万円、四半期純損失の計上2百万円等によるものです。

この結果、自己資本比率は18.4%（前連結会計年度末は20.5%）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度の期末残高と比較して361百万円増加し、1,510百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、500百万円の収入超過（前年同期は325百万円の収入超過）となりました。

これは、税金等調整前四半期純利益64百万円に減価償却費155百万円、減損損失12百万円、のれん償却額21百万円等の調整を加味した上で、売上債権の増加額 64百万円、前払費用の増加額 18百万円、仕入債務の増加額242百万円、未払金の増加額104百万円、未払消費税等の増加額37百万円等があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、268百万円の支出超過（前年同期は106百万円の支出超過）となりました。

これは、有形固定資産の取得による支出245百万円、敷金及び保証金の差入による支出21百万円等があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、131百万円の収入超過（前年同期は242百万円の収入超過）となりました。

これは、短期借入金の増加額155百万円、長期借入れによる収入420百万円、長期借入金の返済による支出429百万円等があったことによるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	7,056,000
計	7,056,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年8月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年10月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,660,900	2,660,900	東京証券取引所 マザーズ市場	単元株式数100株
計	2,660,900	2,660,900	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

( 5 ) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年6月1日～ 平成26年8月31日	-	2,660,900	-	830,375	-	858,295

( 6 ) 【大株主の状況】

(平成26年8月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
金山精三郎	東京都新宿区	1,165,000	43.78
森ビル株式会社	東京都港区六本木6-10-1	60,000	2.25
江藤鉄男	東京都新宿区	34,200	1.28
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1-6-1	25,500	0.95
BNYM SA/NV FOR BNYM CLIENT ACCOUNT MPCS JAPAN	RUE MONTOYER 46 1000 BRUSSELS BELGIUM	15,200	0.57
第一生命株式会社	東京都千代田区有楽町1-13-1	15,000	0.56
辻口博啓	東京都目黒区	9,000	0.33
MIZUHO LUXEMBOURG OMNIBUS AIF	1B,RUE GABRIEL LIPPMANNL-5365 MUNSBACH, GRAND-DUCHY OF LUXEMBOURG	6,300	0.23
坂口泰司	東京都目黒区	5,600	0.21
小林正幸	長野県飯田市	3,400	0.12
計		1,339,200	50.32

(注) 持株比率は単位未満を切捨て表示しております。

## (7)【議決権の状況】

## 【発行済株式】

(平成26年8月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,660,900	26,609	
単元未満株式			
発行済株式総数	2,660,900		
総株主の議決権		26,609	

## 【自己株式等】

(平成26年8月31日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
計					

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年6月1日から平成26年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年3月1日から平成26年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,149,448	1,510,846
売掛金	550,406	614,880
原材料及び貯蔵品	252,857	258,205
繰延税金資産	147,620	143,921
その他	229,955	221,441
貸倒引当金	4,560	4,947
流動資産合計	2,325,729	2,744,347
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,684,075	1,879,320
その他(純額)	272,374	306,149
有形固定資産合計	1,956,450	2,185,469
無形固定資産		
のれん	267,671	246,257
その他	56,512	54,102
無形固定資産合計	324,183	300,360
投資その他の資産		
敷金及び保証金	561,325	580,744
繰延税金資産	16,281	-
その他	22,939	22,995
貸倒引当金	13,345	13,146
投資その他の資産合計	587,201	590,592
固定資産合計	2,867,835	3,076,422
資産合計	5,193,564	5,820,770
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	609,866	805,868
短期借入金	874,224	1,134,570
未払金	697,109	890,260
未払法人税等	58,659	36,116
ポイント引当金	17,491	21,298
株主優待引当金	40,376	40,926
店舗閉鎖損失引当金	-	2,586
その他	307,192	346,089
流動負債合計	2,604,920	3,277,717
固定負債		
長期借入金	910,160	795,888
繰延税金負債	5,800	30,050

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
資産除去債務	431,102	448,486
その他	164,499	187,772
固定負債合計	1,511,562	1,462,197
負債合計	4,116,482	4,739,915
純資産の部		
株主資本		
資本金	830,375	830,375
資本剰余金	898,683	898,683
利益剰余金	516,448	518,840
株主資本合計	1,212,609	1,210,218
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9	11
為替換算調整勘定	145,588	139,842
その他の包括利益累計額合計	145,578	139,830
少数株主持分	10,050	10,467
純資産合計	1,077,081	1,080,855
負債純資産合計	5,193,564	5,820,770

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 3月 1日 至 平成25年 8月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成26年 3月 1日 至 平成26年 8月31日)
売上高	6,743,341	7,026,817
売上原価	5,624,650	5,928,593
売上総利益	1,118,690	1,098,224
販売費及び一般管理費	1,952,944	1,035,475
営業利益	165,746	62,749
営業外収益		
受取利息	246	280
協賛金収入	12,983	26,156
補助金収入	-	10,000
為替差益	44,597	-
その他	11,843	10,666
営業外収益合計	69,671	47,103
営業外費用		
支払利息	21,625	21,848
支払手数料	4,761	-
為替差損	-	5,373
その他	1,735	3,817
営業外費用合計	28,122	31,039
経常利益	207,295	78,813
特別利益		
固定資産売却益	-	863
保険差益	1,693	-
特別利益合計	1,693	863
特別損失		
固定資産除却損	1,429	2,545
減損損失	2,985	12,341
店舗閉鎖損失引当金繰入額	-	383
店舗閉鎖損失	19,178	-
特別損失合計	23,594	15,269
税金等調整前四半期純利益	185,394	64,407
法人税、住民税及び事業税	26,021	21,669
法人税等調整額	24,364	44,231
法人税等合計	50,385	65,900
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失( )	135,008	1,493
少数株主利益	291	898
四半期純利益又は四半期純損失( )	134,716	2,391

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	135,008	1,493
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	1
為替換算調整勘定	38,340	5,265
その他の包括利益合計	38,337	5,267
四半期包括利益	96,671	3,773
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	96,379	3,356
少数株主に係る四半期包括利益	291	417

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	185,394	64,407
減価償却費	127,746	155,898
減損損失	2,985	12,341
のれん償却額	21,413	21,413
貸倒引当金の増減額(は減少)	139	187
株主優待引当金の増減額(は減少)	2,202	549
ポイント引当金の増減額(は減少)	1,811	3,807
店舗閉鎖損失引当金の増減額(は減少)	26,106	2,586
受取利息及び受取配当金	249	284
支払利息	21,625	21,848
為替差損益(は益)	44,597	999
固定資産売却損益(は益)	-	863
固定資産除却損	1,429	2,545
保険差益	1,693	-
売上債権の増減額(は増加)	57,714	64,604
たな卸資産の増減額(は増加)	15,639	5,887
前払費用の増減額(は増加)	7,651	18,596
仕入債務の増減額(は減少)	71,834	242,321
未払金の増減額(は減少)	46,009	104,800
未払消費税等の増減額(は減少)	15,832	37,746
その他	2,567	16,095
小計	361,979	563,122
利息及び配当金の受取額	273	283
利息の支払額	22,385	21,646
保険金の受取額	1,693	-
法人税等の支払額	16,029	40,923
営業活動によるキャッシュ・フロー	325,530	500,836
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	97,380	245,749
有形固定資産の売却による収入	1,324	952
無形固定資産の取得による支出	2,612	2,321
貸付金の回収による収入	181	190
資産除去債務の履行による支出	6,787	-
敷金及び保証金の差入による支出	27,584	21,196
敷金及び保証金の回収による収入	26,335	57
投資活動によるキャッシュ・フロー	106,524	268,065
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	100,000	155,986
長期借入れによる収入	430,000	420,000
長期借入金の返済による支出	273,600	429,912
リース債務の返済による支出	13,746	14,448
財務活動によるキャッシュ・フロー	242,653	131,625
現金及び現金同等物に係る換算差額	33,808	2,998
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	495,467	361,397
現金及び現金同等物の期首残高	603,206	1,149,448
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,098,674	1,510,846

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次の通りです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)
給与及び手当	227,129千円	265,792千円
広告宣伝費	210,693	208,655
貸倒引当金繰入額	439	378
株主優待引当金繰入額	27,207	31,690

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記の通りです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)
現金及び預金	1,098,674千円	1,510,846千円
現金及び現金同等物	1,098,674	1,510,846

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)3
	XEX グループ	カジュアル レストラン グループ	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,569,652	4,170,457	6,740,109	3,231	6,743,341	-	6,743,341
セグメント間の内部 売上高又は振替高	788	16,261	17,049	-	17,049	17,049	-
計	2,570,440	4,186,719	6,757,159	3,231	6,760,391	17,049	6,743,341
セグメント利益 又は損失( )	110,089	536,520	646,610	3,647	642,962	477,216	165,746

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額 477,216千円には、セグメント間取引消去額514千円、各セグメントに配分していない全社費用 477,730千円を含んでおります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

金額的重要性が低いため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)3
	XEX グループ	カジュアル レストラン グループ	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,413,179	4,610,256	7,023,435	3,382	7,026,817	-	7,026,817
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	2,413,179	4,610,256	7,023,435	3,382	7,026,817	-	7,026,817
セグメント利益 又は損失( )	33,101	554,688	587,789	2,593	585,196	522,447	62,749

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額 522,447千円には、セグメント間取引消去額1,730千円、各セグメントに配分していない全社費用 524,178千円を含んでおります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

金額的重要性が低いため、記載を省略しております。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下の通りです。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり 四半期純損失金額( )	50円63銭	0円90銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額( ) (千円)	134,716	2,391
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純 損失金額( )(千円)	134,716	2,391
普通株式の期中平均株式数(株)	2,660,900	2,660,900
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	-	-
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があったも のの概要	<提出会社> 平成25年4月17日取締役会決議 第7回新株予約権 1,827個 平成25年5月30日取締役会決議 第8回新株予約権 818個	-

(注) 1. 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第16期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 平成26年3月1日を効力発生日として普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っておりますが、前連結会計年度期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額を算出しております。

## (重要な後発事象)

当社は、平成26年8月28日開催の取締役会において子会社の設立を決議し、平成26年9月1日に次の通り子会社を設立いたしました。

## 1. 子会社設立の理由

全国の優良生産者とレストラン、シェフ等が連携し、農畜水産品の生産から提供までの一体化に取り組むことを目的として、株式会社シェフズ・ファームズを設立いたします。同社は、トップシェフと生産者の密接な連携を促進し、新しい食材の開発や用途の多様化、流通プラットフォームの構築を通じて、農畜水産業と外食産業の相互発展に貢献してまいります。

## 2. 子会社の概要

- (1) 商号 株式会社シェフズ・ファームズ  
(2) 所在地 東京都港区六本木四丁目4番8号  
(3) 代表者 菊池紳  
(4) 事業内容 食料品等の製造、加工及び卸売、小売  
物品販売店舗及び飲食店舗の企画・運営及び運営受託  
(5) 資本金 1,500万円  
(6) 設立年月日 平成26年9月1日  
(7) 決算期 2月末日  
(8) 株主構成 当社100%

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年10月15日

株式会社ワイズテーブルコーポレーション

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 千 頭 力 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渡 辺 力 夫 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ワイズテーブルコーポレーションの平成26年3月1日から平成27年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年6月1日から平成26年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年3月1日から平成26年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ワイズテーブルコーポレーション及び連結子会社の平成26年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれておりません。